

事業名	女性が自分らしくライフデザインを構築するための健康課題解決インフラ整備のための共同事業～医師設計によるセルフケアとプロケア		
主幹健保名	C&Rグループ健康保険組合		
参加健保組合数	6組合	うち加入者1万人未満の健保数(割合)	3組合(50%)
コンソーシアムの特徴	女性の健康課題に健康保険組合として取り組む意欲のある健康保険組合(職種、業種、女性加入者率問わない)		

エグゼクティブサマリー

背景・目的

女性特有の健康課題は潜在化しやすく、課題抽出が困難・受療率も低い。

専門知識の不足と情報過多を解消し、婦人科専門医設計のインフラによる適切な受療・セルフケア基準の策定を目指す。

事業内容

健診・問診・レセプトを活用した『女性の健康課題管理システム』のアルゴリズム開発。

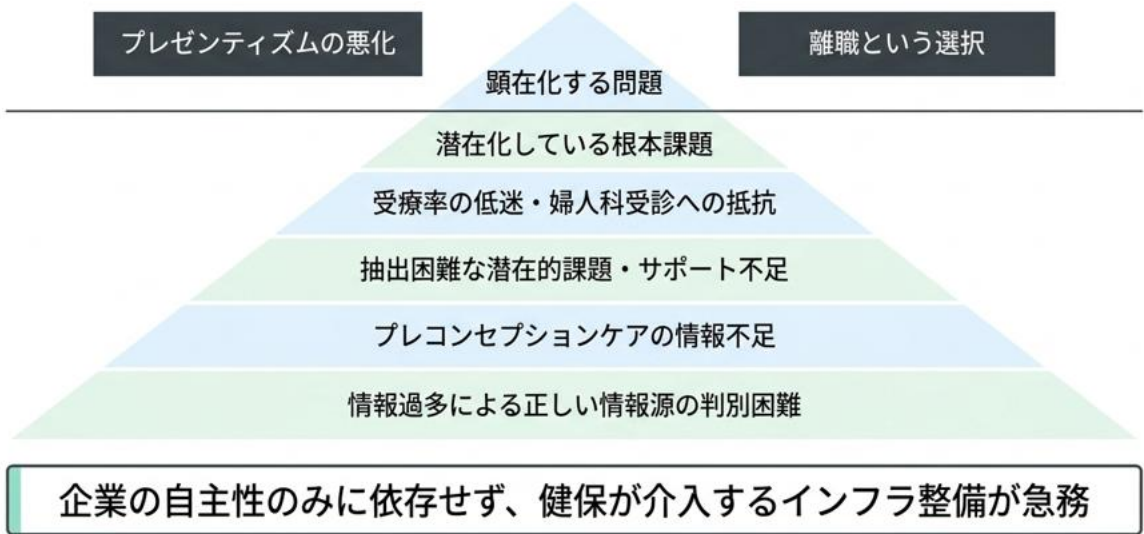
アプリによる異常察知、オンライン処方、セルフメディケーション案内、リテラシー動画配信。

効果・成果

潜在的課題の抽出から介入までのプロセスを標準化。受療率の向上、適切なセルフメディケーションの実施。

中長期的なプレゼンティズムの改善と離職率低下の実現。

背景と阻害要因



労働力人口総数に占める女性割合は45.1%に達し、年々上昇している(出典:令和5年版「働く女性の実情」厚生労働省)仕事と家庭の両立をサポートする制度や雇用環境改善などについては、実施が進行している。

専門知識の不足や情報過多を解消するため、婦人科専門医の知見を取り入れたインフラを整備し、適切なセルフケアとプロフェッショナルケア(受療)の基準を策定することを目的とする。(解決すべき課題:低い受療率。健康課題が抽出できないため、サポート不足。プロケアとセルフケアを組み合わせることが重要であるが、情報過多により、正しい情報源を判別することが難しい。プレコンケアの情報不足から、現在、将来に出産を考えている女性の相談窓口がない潜在的な健康課題の抽出から介入までを標準化。(女性社員比率が低い健保では、保健事業としての予算を確保しにくいということもあり、共同事業で開発したシステム、作成した動画を共有する。

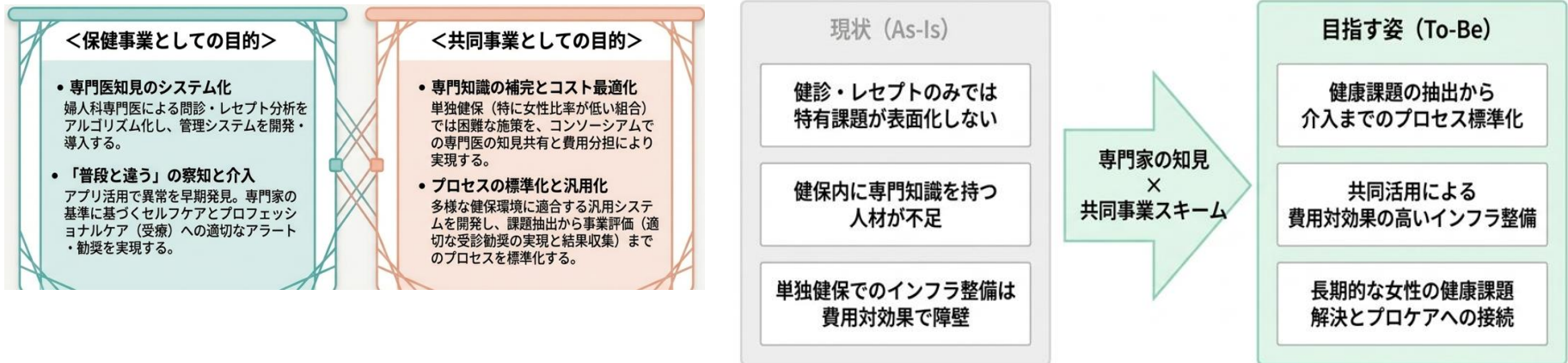
1. 目的

<保健事業としての目的>

問診からレセプト分析までを婦人科専門医が実施し、その知見をアルゴリズム化した『女性の健康課題管理システム』を開発・試験導入する。
潜在化しやすい女性の「普段と違う」異常をアプリ等で察知し、専門家の判断基準に基づき、セルフケアからプロフェッショナルケア(受療)への適切なアラート発信・受療勧奨を行う仕組みを構築する。

<共同事業としての目的>

女性の健康課題は共通しているものの、単独の健保組合(特に女性比率が低い場合)では費用面や専門知識の不足から実施が困難です。共同実施により費用を抑え、専門医の知見を共有して効果的な取り組みを実現する。
多様な健保組合の環境に適合する汎用的なシステムを開発し、プロセスと事業評価の標準化を図る。



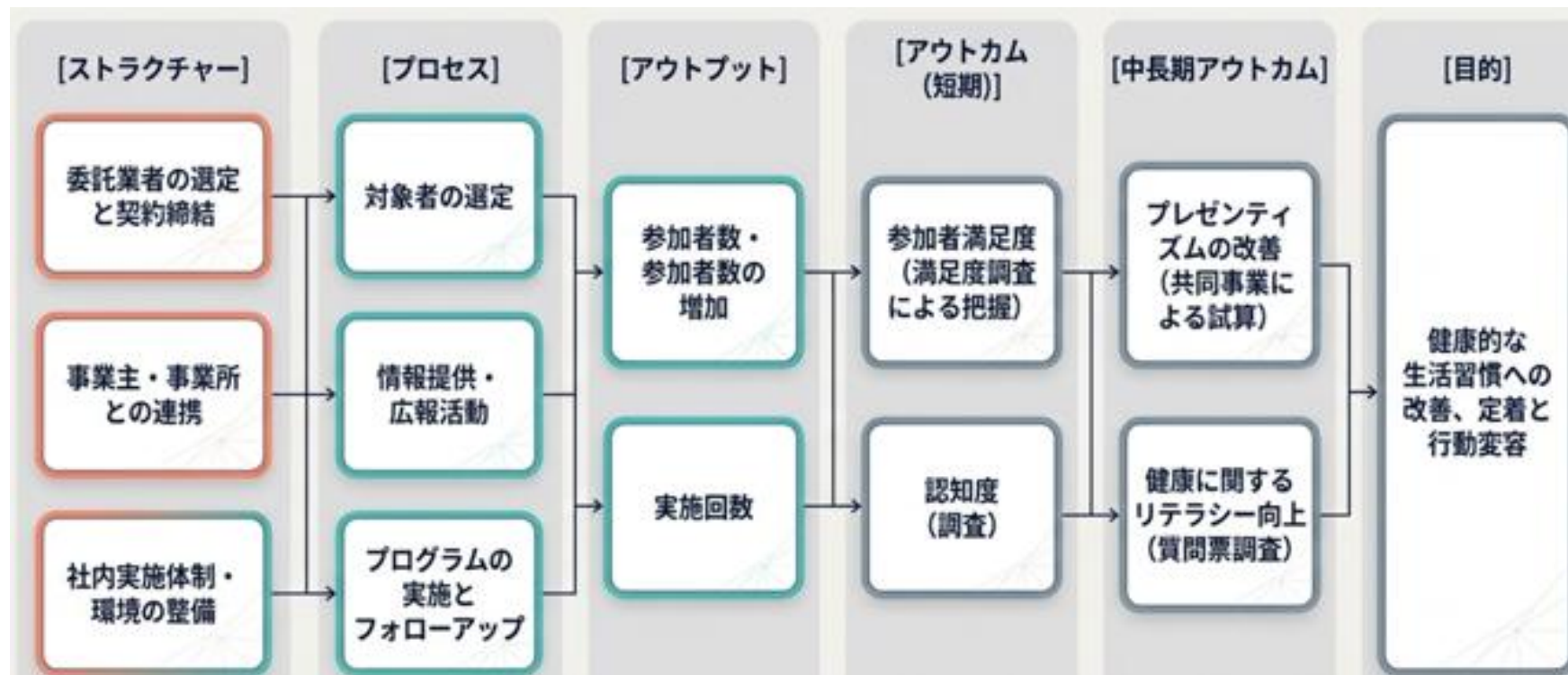
2. 事業内容



データ活用とアルゴリズム開発: 健康保険組合が保有する健診結果、問診、レセプト等のデータを用い、『女性の健康課題管理システム』のためのアルゴリズムを専門医と共同開発します。

システムの開発と試験運用: 開発したシステムにより現状把握と課題抽出を行い、専門家の判断によるセルフケア・プロフェッショナルケアの介入基準(アプリ活用)を設けます。
ヘルスリテラシー向上と具体的介入: 女性特有の健康課題、プレコンセプションケア、がん検診に関するセミナーや動画の配信。保険適用によるオンライン診療を組み合わせた低用量ピル処方プログラムの実施。専門家の判断に基づく、適切かつ安全なセルフメディケーションの案内。

ロジックモデルの確立



3. 共同事業の運営方針

コンソーシアム体制: 健保組合、研究機関(専門医)、システム開発会社によるコンソーシアムを組織し、代表組合を事務局とする事業運営委員会を定期的に開催して進捗管理を行います。

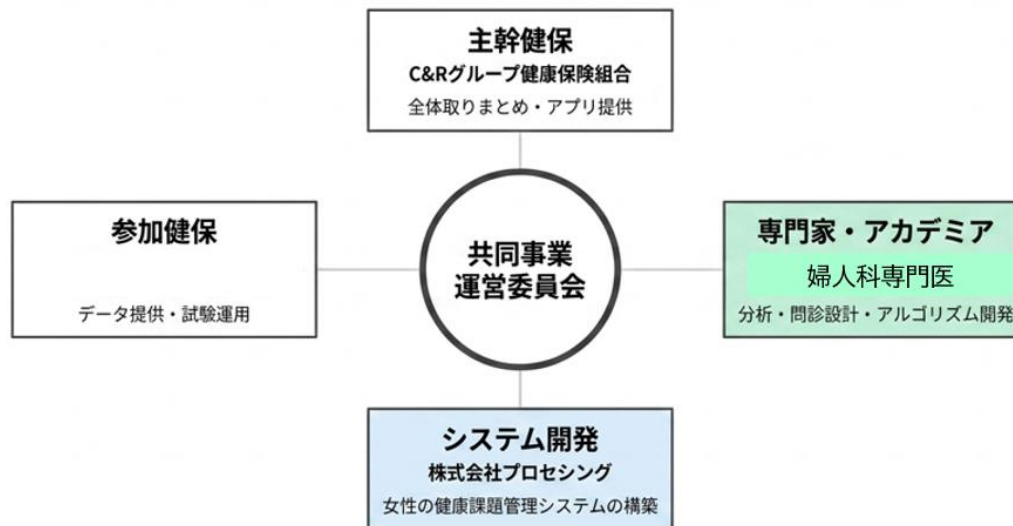
役割分担:

健保組合: データ取得の検討、アルゴリズム開発のサポート、工程表作成、システムの試験運用と評価を行います。

研究機関・専門医: 問診や健診データ等の分析・解析、アルゴリズム開発、システム開発のサポート、事業全体へのアドバイスをを行います。

システム開発会社: 専門家のアルゴリズムを用いた汎用的な『女性の健康課題管理システム』を開発します。

コンソーシアム体制と運営方針 代表組合を事務局とし、事業運営委員会を開催。進捗共有とシステム開発に際し、要望をヒアリング。(総医療費追加や痛みなどの抽出など)。



4. 主な活動報告

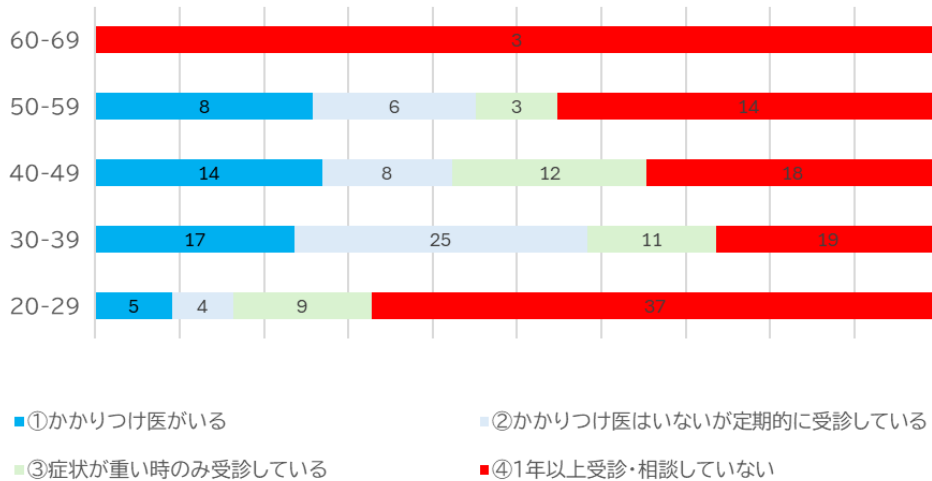
上期 (設計・データ収集フェーズ)	専門医(婦人科医)によるアルゴリズム開発
	専門医(婦人科医)による問診設計の実施
	問診を用いた現状把握
	課題抽出
	勧奨手法の検討
	課題抽出から勧奨種類の選定
	問診配信および回答集計の実際
下期 (実装・評価フェーズ)	動画作成(専門医によるヘルスリテラシー向上のための動画:対馬先生、宋先生)
	アルゴリズムを実装した『女性の健康課題管理システム』の開発完了 コンソーシアム参加健保でのシステム試験運用。



参加健保へのヒアリング(アンケート、システムへの要望)xシステム開発x専門医による監修を繰り返し実施

アンケート結果 30問から一部抜粋

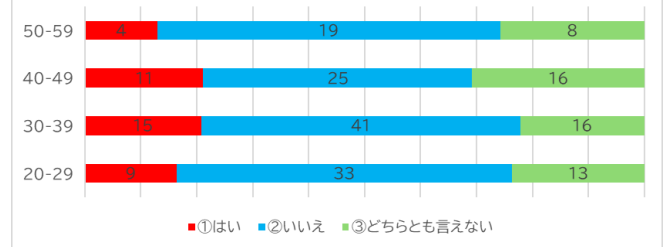
Q4 婦人科関連の症状について婦人科受診やかかりつけ医への定期的な相談をしていますか？



←若年層は、健康課題があっても、受療しない傾向が顕著である。

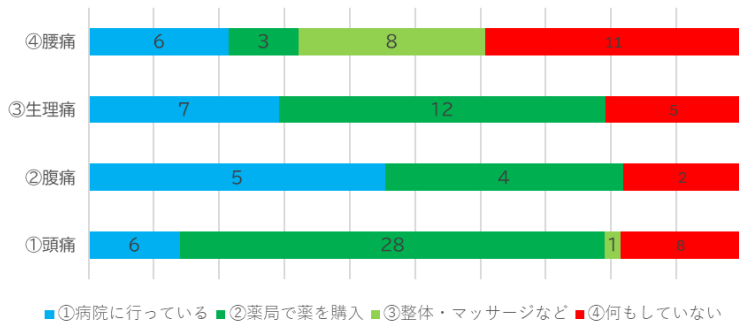
↓定期健康診断に追加される予定の問診をトライアル実施

Q2 女性に関連する健康問題で職場において困っていることがありますか。

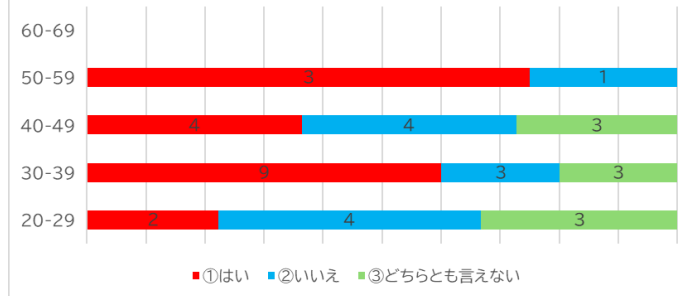


女性の健康課題は女性特有の疾病だけではないため、痛みや花粉症についての問診も実施

痛みの種類と対処



Q3 職場において相談したいこと(配慮してほしいこと)がありますか。



5. 成果報告

<保健事業としての成果>

アウトプット: 専門医によるアルゴリズムおよび問診・アンケートの作成が完了し、『女性の健康課題管理システム』の試験運用とヘルスリテラシー向上のための周知文配信を実施。

システムによる結果から、専門医によるアルゴリズムを構築(受療勧奨、検診受診勧奨など、カスタマイズされた勧奨を実施。医療機関リストを整備し、受領勧奨の際は、提示。

アウトカム: システムを通じたアラート発信により、受療率の向上および適切なセルフメディケーションが確認されました。また、満足度調査等を通じてプレゼンティズムの改善傾向がみられた。

<共同事業としての成果>

健保組合単独では困難であった専門家の知見の活用と、課題抽出から介入までを自動化するシステムの構築が、共同実施により実現した。

参加健保での試験運用により、各組合の実情に応じた運用プロセスの標準化・検証が可能となった。

独自アルゴリズム&問診

婦人科専門医の知見に基づくロジック。健診やレセプトだけでは見落とされる潜在的な健康課題を抽出するための専用問診を完成。

課題管理システム

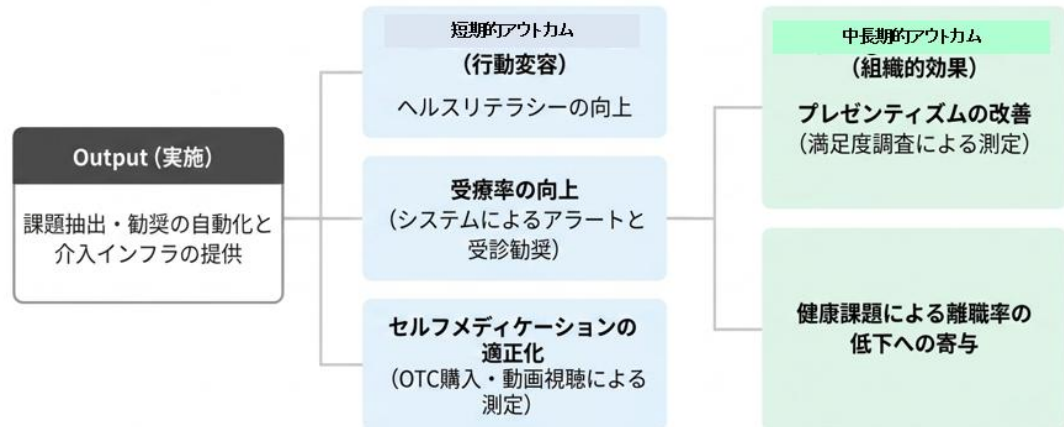
抽出から介入までを自動化する『女性の健康課題管理システム』を構築。健保組合の通常業務として日常的に運用可能なインフラ。

啓発・リテラシー向上

プレコンセプションケア、更年期障害、婦人科がん検診のメリット・デメリットを解説するセミナーおよび動画コンテンツの配信実施。

具体的介入プログラム

保険適用によるオンライン診療を連携させた低用量ピル処方プログラムと、専門家指導による適切かつ安全なセルフメディケーション案内。



6. 今後の事業運営方針

継続的なシステム運用: 本事業で構築したアルゴリズム、システム、工程表、および受診勧奨ツールは、事業終了後もコンソーシアム参加健保組合において日常業務として継続利用していく予定。

他健保・社会への展開: 開発したシステムは多様な環境に適合する汎用性の高いものであるため、コンソーシアム未参加の他の健保組合にも幅広く公開・提供し、女性の健康課題解決の普及を図る。

企業との連携発展: 今後は、企業が自社の取り組みとして実施している女性の健康増進施策と、健康保険組合の保健事業とのコラボレーションへと発展させていくことを目指す。

01 コンソーシアム内での定着

構築したアルゴリズム、システム、工程表を、参加健保組合の日常的な通常業務（安定した保健事業）として継続利用・定着化。

02 未参加健保への汎用公開

多様な環境に適合するシステムの高い汎用性を活かし、コンソーシアム未参加の全国の健康保険組合へインフラを公開・普及。

03 企業(事業主)施策とのコラボレーション

健保単独の事業から脱却し、企業が独自に実施する女性の健康増進施策とシステムを連携させ、組織全体の健康経営基盤へと発展。